

鶴見大文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.22

ドキュメンテーション



歓迎会にて

国際インターンシップ in 世新大学 / from 世新大学・北京大学・中山大学

2015年度の特別実習Ⅱは、2月23日（火）から3月2日（水）の9日間の日程で実施され、1年生3名、2年生1名の参加がありました。世新大学図書館をはじめ、故宮博物院、国立台湾図書館、国立台湾大学図書館、台北市立図書館等の図書館見学を行いました。

実習前半は台湾の雨季にあたり、日本の真冬と変わらぬ寒さでしたが、参加学生たちは体調を崩すこともなく、世新大学の学生たちと、放課後や休日にも交流を深めました。

特別実習Ⅱの体験者は、本学科が台湾・中国からの学生を受け入れる国際インターンシップでは受け入れ側として活躍してくれています。今年度ご協力くださった学生の皆さん、本当におつかれさまでした。

また本学科の側でも、本年度（2016年度）の6月29日（水）から7月13日（水）まで、台湾の世新大学と、中国の中山大学・北京大学から、学生21名（ほか教職員3名）を、国際インターンシップ生として受け入れました。なお今回も、図書館の皆さんや、国際交流センターの皆さんに、実習や引率、見学先との交渉などでご協力をいただきました。

期間中、鶴見大学のゲストハウスに滞在しながら、本学科各コースの授業や、他学科の教員による特別講義への出席、また大学図書館見学や、同館蔵の貴重書観覧な

どに参加しました。また総持寺の拝観や精進料理、座禅なども体験しました。ここではイタリア出身の修行僧の英語による案内もあり、好評を博しました。

学外見学としては、国立国会図書館や、横浜美術館、NHKスタジオパーク、東芝未来科学館、安藤百福発明記念館などにも赴きました。これらを通じて、諸国間の諸文化に関する知見を深めてもらえたようでしたら、幸いです。

こうしたプログラムの中で、またそれ以外の場で、本学科の学生たちとの交流も活発に行われました。空港への出迎えと歓迎会に始まって、複数の授業でのグループワークやディスカッションなどを通じて、言葉の壁をいろいろな工夫で乗り越えながら、コミュニケーションをはかっていました。あるいは近隣の商店街の案内その中でも、本学科の学生が、とても力になってくれました。

双方の国際インターンシップを通じ、参加した学生の皆さんそれぞれが、とても近い国々同士、互いの文化や学問、習慣や考え方等々について理解を深め、これからも長く共感し合えるきっかけになれば、こんなに嬉しいことはない、関係者一同、思っています。

ドキュメンテーション学科 主任 角田 裕之

角ヶ谷晴香

台湾研修は普段学べないことを学べる良い機会でした。図書館や博物館の見学を経て、日本で学んだことを海外と比較して考えられるようになりました。例えば、制度や分類方法など様々な視点で考えることで、新たな課題や見習うべき点を学びました。また、台湾で日本文化に触れる機会も多々あり、とても新鮮でした。加えて、現地の学生と行動を共にし交流を深めることで、日本と台湾の相違点を発見することができました。更に、図書館や大学のことだけではなく、趣味などの個人的なことも話すことができ、より深く文化に触れることができました。このような研修は自分自身を成長させるものなので、これからも積極的に参加していきたいと考えています。

岡村江里奈

私は、海外へ行くのはこの台湾研修が初めてだったので、不安もあったけれど、とても充実した日々を過ごすことができ、たくさんの経験ができた研修になったと思います。

台湾では、大学図書館や市立図書館、博物館などの素晴らしい場所をたくさん見学することができました。世新大学の学生さんとも仲良くなることができ、観光もたくさんすることができ、初めて体験することもいろいろあったので、とても楽しい毎日を送ることができて、9日間があつという間だったなと思いました。

私にとって台湾研修は忘れられない思い出の1つになりました。

戸澤穂乃香

私にとって、海外を訪れるということは初めての経験ではありませんでした。ですが、今回の台湾研修はそれらとは違う、人生の中でとても大切な経験のひとつになったと思います。今回は観光ではなく、研修が目的だからです。授業の一環として訪れることによって、普段とは違う視点で台湾について考えることが出来ました。例えば、日本との関係など、何も学ばずに訪れただけでは、これほど深いものだとは考えもしませんでした。

多くの発見があった中、一番記憶に残っていることは、図書館見学です。以前から、海外の図書館のシステムや建築にとっても興味がありましたので、研修中たくさんの図書館を訪れ、実際に見学することが出来て、私にとって大切な経験となりました。実際に見学して、それぞれの図書館のシステムや建築についてだけでなく、図書館の歴史についても知ることが出来たことはとても興味深かったです。

そして、今回の研修で新しく海外とのつながりを持たせたことにとても感謝しています。世新大学の学生の方々はどれだけ感謝を伝えても足りないくらいです。もともと、英語が苦手だった私は、ただ海外の図書館を見学できればいいと思っていましたが、研修に参加させてもらえたことによって、まじめに英語を習得し、もっとたくさんの人たちとコミュニケーションをとりたいと感じました。

今回の研修で得た多くのことを忘れずに、これから必ず活かしていきたいと思います。そして、この研修に、もっとたくさんの人たちが参加して、たくさんのことを得てほしいと思いました。

グループワークに参加して ドキュメンテーション学科の学生の感想

英語で表現する力が身についたと思う。合同授業では、むこうの学生の方と楽しく話せた。中国語も少し教えてもらって貴重な経験ができた。

言葉も文化も違う同年代の人間とコミュニケーションをとるということは、普段の生活ではなかなか体験することがないので、授業でそれができたというのは貴重だった。



国際インターンシップ 鶴見大学にて

🍃 世新大学 1年 陳姿云 Chen Tzuyun

外国に行くのは初めてだったので、ワクワクするとともに心配でもありました。私の英語はとても下手なので、出発が近づくとともに不安が募りました。心配したとおり、最初の日には英語で話がほとんどできませんでした。話したいことはたくさんあったのに。でも、日が経つにつれ、すこしずつ落ち着いて話せるようになりました。

鶴見大の学生のみなさんは、とても友好的で親切にしてくれました。英語での話がスムーズにいかないこともありましたが、ときにはボディランゲージを使って伝え合いました。私は、日本人の礼儀正しいところも、日本のすこししやすい気候も、日本の食べものも気に入りましたが、一番嬉しかったのは、友達ができたことです。みなさんの思いやりと暖かい気持ちのおかげで、この15日間さびしい思いをせずにすみしました。2週間はとてもゆっくり進み、同時にとても速くも感じました。

🍃 北京大学 修士1年 姜庆远 Jiang Qingyuan

この2週間でとても多くのことを学び、楽しい時間を過ごすことができた。先生方も学生も、たいへん熱心であった。今までいろいろな大学を訪ねたが、これほど温かく歓迎してくれたところは他にない。私たちは日本語での自己紹介のしかたを学び、逆に中国語での自己紹介の仕方を教えた。図書館の未来についてや、最新技術による障害者サポートについてなど、さまざまな講義も受けた。なかでも印象的だったのは伊倉先生と久保木先生による日本の古典籍についての講義で、貴重な古典籍の実物を見せてもらえた。北京大学にも中国の古典籍がたくさんあるのだが、奥深く収蔵されていて私たちが見ることはできない。

忘れがたい2週間だった。ぜひ北京大学も訪れてほしい。

🍃 中山大学 1年 郑淳 Zheng Chun

とても良い宿舎でした。畳に布団を敷くことを教わりましたが、初めての経験でした。歓迎会では、おいしい食事をいただきました。先生方と学生のみなさんもとても親切でした！

総持寺を訪問しました。昼食をいただくには厳しい作法がありましたが、それで神聖な気持ちになりました。修行僧の生活に触れられたのは意義深いことです。今日たくさんいる、内面の平和を失っている人にとって、お寺はよい場所かもしれません。

鶴見大学図書館では、AVセンターがとても印象的でした。さらに、グループ学習室やセミナー室など、さまざまな素敵な部屋や座席に惹かれました。司書の仕事を体験できたのも興味深かったです。

* 研修生の感想は、英語原文からの抄訳

🗨️ 否が応でも英語を使わないと交流できない状況というのは滅多にない。異文化との交流は成長につながると思う。

🗨️ 国際交流の機会があるのはとてもいいこと。今後国際交流は必要だと個人的に感じたし、続けて行ってほしい。ただ、鶴見大学生との交流企画が少ないように感じたので、今後増えたらいいと思った。

🗨️ 最初は言語の違いがあり、上手くコミュニケーションが取れなかったが、スライドを作成するときに中国語を根気よく教えてくれて、言語が分からなくても交流する方法はあることが分かった。

見学会 ― 神奈川県立金沢文庫と称名寺

ドキュメンテーション学会では、毎年度4月の恒例行事として、新1年生を主な対象としたバス見学会を実施しています。本年度は、神奈川県立金沢文庫と、隣接する称名寺を訪れました。

金沢文庫は、13世紀中期頃、北条実時によって創設された文庫（ふみくら）です。また称名寺は、金沢北条氏の菩提寺です。その双方に、今現在に至るまで伝えられてきた古典籍群は、文化財としても学術資料としても、極めて重要なものであり、ちょうど本年度には、それら「称名寺聖教・金沢文庫文書」が新国宝に指定されました。

見学会当日は、まず学芸員の方の平易軽妙にして、実に専門的な内容のレクチャーをうかがいました。次いで展覧会「金沢百景～角田武夫の描いた失われた風景～」を拝観し、さらに自由時間を設けて、称名寺の広々とした庭園を散策しました。好天にも恵まれ、新1年生同士の交流の機会ともなりました。

笹尾真優

金沢文庫という名前は前から聞いたことはありましたが、地名だと思っていました。文書を置いてある文庫だったと初めて知りました。しかも、国宝があるなんて驚きでした。博物館では大きな仏像も印象的で、後ろの復元図も豪華で美しいと感じました。金沢百景の絵は、あんな膨大な絵を描いたのだと思うと、本当にすごいなと思いました。どれも1つ1つ繊細に描かれていて見入ってしまいました。そのほか、称名寺に行ってみたり、大きな庭園を歩いてみたり、橋を渡ったりと、どれもすてきな思い出になりました。

古川 薫

金沢文庫には初めて来ました。人づてに聞いていたので、一度訪れてみたいと考えていて、実際に行くことができよかったです。最初の説明で、金沢文庫が歴史ある、貴重な書物を数多く収めていることを詳しく聞き、早く見たいと、気持ちが高鳴りました。また、金沢文庫は特殊な形態の図書館であることを知り、こうしたところで働く司書さんもいることは興味深いことでした。展示では、角田武夫の作品が魅力的でした。特に、金沢百景と、数々の文豪が関わっている「落雁集」に興味をひかれました。金沢文庫に来るまで、角田武夫という人をよく知らなかったことが悔しくなりました。「落雁集」は強く心に残っているので、自分でも調べてみたいです。

本田 匠

初めは「文庫」という名だったので、図書館や会社などを連想していましたが、レクチャーで博物館と知った時はとても驚きました。収蔵品は称名寺の貴重な品が主になっていて、多くの僧侶たちのいとなみを記した書物や大きな仏像などを見ることができてよかったです。また称名寺の門をくぐり金沢文庫に入るまでがとてもきれいでした。もし桜が咲いていたらもっときれいだったんだろうと思いました。そんな美しい景色や澄んだ空気の中で佇んでいる建物の姿にみとれてしまいました。多くの貴重な収蔵品を見られて楽しかったです。ありがとうございました。



称名寺の庭園にて

学生の声

図書館アルバイト

大関 南

私は2年生の後期より、大学図書館にてアルバイトをしています。図書館業務に元々興味があったことや、授業のない日や空き時間にシフトを入れられることに魅力を感じたことがきっかけでした。

これまでに、1階のカウンター業務や、地下1階にある視聴覚室のカウンター業務の補助といった仕事をしてきました。3年生の後期からは、文献複写業務の一端にも携わっています。この業務では、他大学や研究機関からの依頼によって、鶴見大学図書館に所蔵されている図書・雑誌の一部分を複写するといった作業を行っています。依頼された論文や著者、指定された範囲に間違いがないか注意し、文字や図が潰れたり薄れたりしないようにしながら、丁寧に本を扱いつつコピーしていくので、作業自体は単調である反面、とても気を配ることが多いです。ですが、図書館での利用者としてからは目に見えない仕事を、こうして担当できていることに感謝しています。何より、今まで授業で学んできたことを、図書館アルバイトで活かしていることを強く実感しています。

博物館実習

川崎市立日本民家園

濱田千尋



私は川崎市立日本民家園において博物館実習をさせていただきました。日本民家園は野外博物館となっていて、古民家や歌舞伎舞台など敷地内に25軒の建造物を有しています。

この実習では、企画展示の準備や、イベントのスタッフなど様々な仕事を体験しました。七夕イベントのスタッフをしたときは紙衣という七夕飾りの作り方を子どもたちに教えました。沢山の家族に来ていただいて博物館におけるイベントの現場を学びました。また、古民家の中まで当初の復元を心がけるなど、実際に古民家に入って見て回れる民家園だからその工夫などを多く学びました。

今回の実習では授業だけではわからない、学芸員の仕事を細かいところまで学ぶことが出来ました。この経験を活かし、学芸員資格の取得に励みたいと思います。

神奈川近代文学館

波平和子

私は神奈川近代文学館に実習に行きました。文学館では多くの肉筆資料や図書や雑誌などを扱っており、実習では作家が書いたはぎなどを翻字する書簡翻字実習を行いました。旧字や現代の字でも癖のある字で読みづらいところもありましたが、授業で習ったくずし字が役に立ちました。

また特別資料室では芥川龍之介の『蜘蛛の糸』の原稿や江戸川乱歩の書簡など貴重なものも見せていただきました。他にも雑誌に付属している資料の調査や破損した図書や雑誌を生麩糊で補修し、カイルラッパーという図書を保存する為の箱を作りました。文学館での実習はカッターを使用したり、糊を使用したりと私が思っていたよりも物作りをすることが多かったです。文学館ではとても貴重な体験ができて良かったです。

大学院便り

文学研究科・博士前期課程2年/本学科2014年度卒業生 高橋裕美

ドキュメンテーション学科から大学院に進学した二人の先輩（英米文学専攻）と違い、私は日本文学専攻に所属している。日本文学に関して知らないことがたくさんあり、入学した頃は戸惑いも多かった。大学院での履修科目数は学部より少ないが、ほぼ全て演習形式の授業である。あらかじめ調査・準備が必要であり、濃密である。

私は『徒然草』絵入り版本の挿絵を比較し、版本同士の影響・変遷を見ていく研究を行い、修士論文の執筆も並行して行っている。大学院ではドキュメンテーション学科の授業で学んだことが大いに役立った。また、司書課程で学んだことを活かすことができた。私はドキュメンテーション学科に入り、司書資格を取って良かったと感じている。

高大連携 — 神奈川県高等学校文化連盟 社会科専門部会連携模擬授業

去る7月10日（日）に、神奈川県高等学校文化連盟社会科専門部会と鶴見大学文学部と連携した模擬授業が鶴見大学6号館講堂にて行われました。この試みは平成26年度にはじまって、今年で3回目となります。今回は青山学院横浜英和中学高等学校、鎌倉学園中学校、武相高等学校、横須賀学院高等学校から、歴史部、考古学部、図書部などの社会科系のクラブに所属する高校生、中学生18名と引率の先生6名が参加されました。

今年の授業のテーマは「和本リテラシー講座：和綴じ本を作ってみよう」。ドキュメンテーション学科の伊倉史人教授が授業を担当しました。授業前半は、文字の歴史、紙の発明、書物の誕生と歴史、書物の装訂の種類について、実際に古典籍（写本・版本）に触れながら学びました。後半は、いよいよ和綴じ本の作成です。日本独自の装訂とされている列葉装（綴葉装とも）の作成に挑戦しました。紐を2本使う複雑な綴じ方ですが、上手に仕上げるとほとんど紐が見えなくなるとても美しい装訂です。終了予定時間を大幅に越えたものの、各自熱心に作業に取り組み、全員どうにか完成させることができました。



和綴じ本作成に没頭する参加者の皆さん

横須賀学院高等学校・2年

今日初めて列葉装の本を見ました。糸で綴じているだけなのに、しっかりと綴じられていてびっくりしました。実際にいろいろな書物を見ることができたのも貴重な体験になりました。自分で綴じた本も、中を開いてみると普通のノートみたいで、昔の人もこんな風に紙を製本していたのかと思うと、歴史を感じました。

鎌倉学園中学校・1年

昔の文字のことや、その文字を書くものがよくわかりました。本を綴じるのは難しかったけれど、昔の本の作り方が今とはぜんぜん違うのがわかりました。

武相高等学校・2年

和綴じ本というのがどういう本なのか、はじめはぜんぜんわからなかったのですが、紙や文字の歴史を学んで理解できました。製本の難しさも学べて、今回模擬授業に参加できて良かったと思います。

横須賀学院高等学校・2年

現代の書物では見られない綴じ方で、とても新鮮に感じました。実際に作ってみると、それほど難しくなく、とても楽しかったです。完成した本は、夏休みの旅行記を書く時に使用したいと思います。学校で配られたプリント等をまとめるのにも、とても有効な綴じ方だと思いましたので、自分で量産したいと思います。

青山学院横浜英和女学院中学高等学校・2年

思いのほか本を作るのが難しかったです。出来上がりを見ると、達成感を得ることができました。楽しい体験となりました！ ありがとうございました。

鎌倉学園中学校・2年

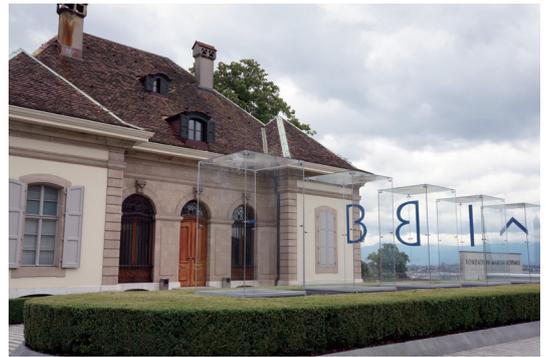
色々な歴史上の出来事や神話などを書き記し、後世に伝えている文字や本の種類や歴史を知れ、関心が深まってたいへん良かったです。江戸時代の行政に関する本や戦国時代の軍記なども見てみたいです。

No.12 【ボドメール財団博物館〔ジュネーブ、スイス〕】

Fondation Martin Bodmer Museum, Geneva, Switzerland

ジュネーブの旧市街地にあるバスのハブ駅リヴ（Rive）からAルートのバスに乗り乗り10分も走ると丘を登りはじめ、突然、高台の上からレマン湖を望む視界が開けた三叉路に出る。このサークルに沿うようにある敷地にボドメール財団が誇る古典籍の博物館がある。博物館の敷地には財団の古い建物と広い庭があり、レマン湖とジュネーブの街を眺めることができる。

博物館は敷地の地下に作られていて、入り口は地下1階、博物館の展示室は、同じフロアとさらに地下にある広いフロアの2層になっている。展示室の入り口は2重扉で、空調管理がされている。



ボドメール財団

展示されているコレクションは、古代エジプトのパピルス、3世紀頃のギリシャの写本、10世紀頃からの中世



博物館入り口

の写本、15世紀カンタベリー物語の写本、ゲーテンベルクの42行聖書、シェークスピアの各種初版本、ガリレオ『天文対話』の初版本、ニュートンの『数学的諸原理』の初版本とメモ書き、モーツアルトの自筆楽譜、ゲーテの各種初版本、アインシュタインの草稿などが一堂に展示されている。ここに紹介しきれない作品を書きこぼすことに罪悪感を感じるほどの一級品のコレクションが、広く暗い部屋に展示されている。

展示室は照明が極力落とされ、部屋に入っても殆どなにも見えない。ガラスケースに近づいていくと、周りの照明がつき、ガラスケースにも明かりがつく仕組みになっている。はじめは

暗くてよく見えないでいたが、本を見るときには必然的に顔を近づけることになるので、そうすると、これくらいの明るさでも本はきちんと見えてくる。慣れてくると、紙質を見るために首をかしげたときライトから明かりが目に入りひどく眩しく感じた。なんとも贅沢な空間で、古典籍の専門家でもなく西洋の古典にも詳しくない自分であっても、幸せな気持ちになった。かくも書籍は美しいものであったのか。そう感じさせられたことから、この博物館の展示の素晴らしさを物語ると思う。

元々は研究者向けの資料室であったこともあるのか、商売気は全くなく、受付にほんの少しのお土産品があるだけで、博物館の案内書も置かれていない。唯一ある英語のカタログも、ひどく重たい1万円超のものしかない。但し、今思うと、買っておけば良かったとひどく後悔している。展示品はどれも、もう一度見たいと思わせる美しさがあったのだ。館内は写真撮影が禁止されている。

（大矢一志）

アクセス：ジュネーブの中央駅(Gare Cornavin)から旧市街地へ移動し、リヴ（Rive）から出ているAルートのバスの場合、Cologny-Temple 駅で下車、ボドメール財団の案内板を頼りに敷地に入る。リヴから33ルートのバスの場合、Croisée de Cologny 下車、Cologny 方向へ5分ほど歩く。

開館時間：火曜 - 日曜 :14:00-18:00、月曜・祝日は休館。

アドレス：Fondation Martin Bodmer Bibliothèque et Musée Route Martin Bodmer 19-20, 1223 Cologny, Geneva, Switzerland
www.fondationbodmer.ch

学科・学会活動報告

2016年4月～2016年7月

■ 4月2日 新入生交流会

オリエンテーションに加えて、新入生交流会を実施しました。新入生に加えて、教職員の自己紹介も行いました。

■ 4月4日 ノートPC貸与

4年間の大学生生活で活用してもらうために、ノートPCを貸与しました。

■ 4月5日 平成28年度入学式



ドキュメンテーション学科13期生の皆さんが入学しました。入学式後、学科別に教室へ移動し、教職員が挨拶をしました。

■ 4月16日 見学会：神奈川県立金沢文庫

地元である神奈川県を知ってもらう・見直してもらうために、神奈川県立金沢文庫へ見学に行きました。

■ 4月25日～6月20日 特別実習I事前授業

夏休み期間、書店を中心に各自のテーマに従って現地調査へ行く前に、事前授業を4回（4月25日、5月9日、6月6日・20日）行いました。鶴見地域周辺を対象の予備調査や各自のテーマについても話し合いました。

■ 5月16日・30日 パソコン補習

1年生の前期必修授業「情報機器教育論」で実施しているタイピングテストで補習対象となった学生たちに、タイピングのコツを伝えました。

■ 5月27日・7月6日 学内合同企業説明会

初回は約50社、2回目は約15社にご参加いただきました。授業が重なっている学生もいましたが、4年生が参加し、説明を受けていました。就活に興味がある下級生の参加もありました。

■ 6月29日～7月13日 国際インターンシップ

台湾・世新大学と中国・北京大学および中山大学から21名の学部生・大学院生がインターンシップ生として来日しました。2週間以内に、数々の授業を受け、東京と神奈川の施設（図書館や研究施設等）を見学しました。

■ 7月2日 教育懇談会

保護者会の後、学科別に保護者の皆様と教員が懇談会を行いました。意見交換や個別面談も実施しました。

■ 7月9日 研究室説明会

研究室配属に向けて、3年生に教員から研究室の説明を実施しました。

■ 7月9日 ドキュメンテーション学会総会と交流会



平成27年度の事業・会計報告、監査結果報告、平成28年度事業・予算計画が報告されました。その後、大学開館食堂にて交流会を実施しました。

※活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第22号をお届けします。
- 2016年度国際インターンシップの特集号です。3月に世新大学へ実習に行った学生の感想文も掲載。
- 1年生対象の春の見学会では、金沢文庫と称名寺に行きました。新入生の皆さん、交流を深めることはできたでしょうか。

ドキュメンテーション 第22号
平成28（2016）年9月11日（日）
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3
☎045(581)1001 発行責任者：角田 裕之
学科ホームページ：<http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>